

《どうでもいい話、その 532》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

ボランティア先の小・中学校も授業が再開し、徐々に元の日常に戻りつつありますが、まだ「小人閑居して不善をなす」このようなときは本当にどうでもいいことを考えるものです。えーと、女性の多くはしゃべるのが好きです。思い浮かんだことを次から次と口に出すというのでもなく、口のあたりに漂ったものをそのまま口に出してしゃべっているのです。それもしゃべりだしたらキリがなく、延々としゃべります。この前も、買い物に行った際、道ばたで二人のオバさんがしゃべっていましたが、1時間ほどしてからの帰り道にまだしゃべっていました。このしゃべりたいという欲求は何事にも代えがたく3密をも避けています。（この避けては関係ないという意）また、ウォーキングに行って汗をかいたので、公園のあずま屋でひと休みしていたら、そのあずま屋にこちらも二人のオバさんが、私など眼中になく夢中でしゃべっていて、それとなく話を聞いてしまいました。その内容は「隣りの家の奥さんと、向かいの家の奥さんとの相関関係」とか「更年期障害と頻尿との相関関係」などといった類いの話しでした。そのうちに、マスク美人の彼女らから「仲間に入らない？」と誘われて、密室、密接、密着の相関関係になったら どうしよう！ 小人は不善なことを考えるのでした。

岩波より